

リンゴ褐斑病の発生が例年より早く、多発しています

8月上旬に宇都宮市、矢板市の7ほ場を調査した結果、リンゴ褐斑病が発生ほ場率、発生葉率共に高くなっています（表1、図）。本年は、5～7月に多雨や寡照が続いたため例年より早く発生したと考えられます。また、近年9月上旬の発生葉率が高くなっています。多発した場合、収穫期間中に早期落葉し収量に影響を及ぼすので、既に発生しているほ場や昨年度多発したほ場では特に注意を要します。

表1 発生状況の経年変化（％）

年度	8月上旬		9月上旬	
	ほ場率	葉率	ほ場率	葉率
R1 (2019)	100.0	1.4	—	—
H30 (2018)	0.0	0.0	50.0	1.5
H29 (2017)	0.0	0.0	75.0	1.9
H28 (2016)	0.0	0.0	50.0	0.0
H27 (2015)	0.0	0.0	33.3	0.0
H26 (2014)	16.7	0.0	33.3	0.0
H25 (2013)	0.0	0.0	0.0	0.0
H24 (2012)	33.3	0.7	—	—
H23 (2011)	0.0	0.0	—	—
H22 (2010)	0.0	0.0	—	—
H21 (2009)	0.0	0.0	—	—
平年値	5.0	0.1	40.3	0.6

※9月調査はH25(2013)年度～、平年値は6年間の平均

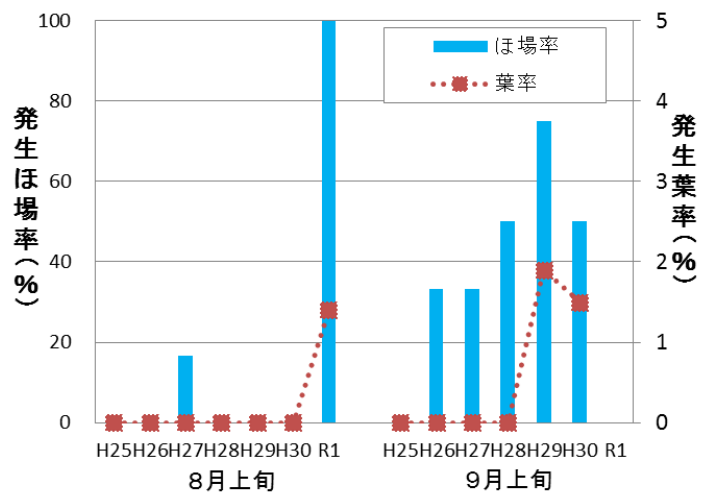


図 リンゴ褐斑病発生ほ場率・発生葉率の推移

1 褐斑病について

一次伝染源は前年の被害葉です。落葉上の子のう殻が晩秋から形成します。開花前頃に成熟した子のう胞子が形成され、開花期から落花30日後頃まで子のう胞子が飛散します。感染部分の病斑内に形成された分生胞子が二次伝染源となり、生育期間中の降雨のたびに胞子が伝搬され発生を繰り返します。



写真 不定形褐斑、胞子が虫糞状(黒点小粒)に着き、葉の黄化がみられる（左）
樹冠内部に罹病葉の拡大がみられる（右）

2 防除対策

- ・定期的に園内を良く観察し、罹病葉が確認されたらトップジンM水和剤、ベンレート水和剤等、治療効果の高い剤を使用する。複数回使用している場合は耐性菌発生防止のため剤を変更し、連用を避ける。

<次年度に向けた対策>

- ・一次伝染源の密度を減らすため、落葉は集めて土中に埋めるなど適正に処理する。
- ・密植園や過繁茂による通風不良園では、樹冠内部の枝葉に薬剤がかかりにくく、葉も軟弱で感染・発病しやすくなるので樹形の改善を行うとともに園内環境整備を徹底する。

表2 リンゴ褐斑病に登録のある主な薬剤

令和元年8月14日現在

農薬の名称	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤使用回数	有効成分の名称	有効成分の総使用回数	RACコード
トップジンM水和剤	1500~2000倍	散布	収穫前日まで	6回以内	チオファネートメチル	10回以内(塗布は3回以内、灌注は1回以内、散布は6回以内)	F:1
ベンレート水和剤	2000~3000倍	散布	収穫前日まで	4回以内	ベノミル	4回以内	F:1
パレード15フロアブル	2000~3000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	ピラジフルミド	2回以内	F:7
ストロビードライフロアブル	2000~3000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	クレソキシムメチル	3回以内	F:11
ポリオキシシリンAL水和剤	1000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	ポリオキシシリン複合体	5回以内(散布は3回以内)	F:19
オーソサイド水和剤80	600~800倍	散布	収穫前日まで	6回以内	キャプタン	6回以内	F:M4
アリエッティC水和剤	800倍	散布	収穫前日まで	3回以内	1. キャプタン 2. ホセチル	1. 6回以内 2. 3回以内	F:M4・33
オキシラン水和剤	500~600倍	散布	収穫14日前まで	4回以内	1. キャプタン 2. 有機銅	1. 6回以内 2. 7回以内(塗布は3回以内、散布は4回以内)	F:M4・M1
ベルコートフロアブル	1000~1500倍	散布	収穫前日まで	6回以内(但し、開花期以降散布は3回以内)	イミノクタジナルベシル酸塩	8回以内(液剤及び水和剤は合計6回以内(開花期以降は3回以内)、塗布剤は2回以内)	F:M7
デュアルサイド水和剤	2000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	1. プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル 2. ポリオキシシリン複合体	1. - 2. 5回以内(散布は3回以内)	I:-, F:19
ダイパワー水和剤	800~1000倍	散布	収穫前日まで	6回以内(但し、開花期以降散布は3回以内)	1. イミノクタジナルベシル酸塩 2. キャプタン	1. 8回以内(液剤及び水和剤は合計6回以内(開花期以降は3回以内)、塗布剤は2回以内) 2. 6回以内	M07, M04

※RACコードが同じものは作用点と同じなので連用を避ける
例) トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は共にF:1

詳細は、農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。



6月~8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック! 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使しましょう!